



七尾市がSDGs未来都市に 選定されるまでの奮闘と これから

のと共栄信用金庫

ふるさと創生部次長 (SDGs/ESD 金融推進デスク)

入口 翔 氏



——これまで進められてきた地域課題解決のための取組とその成果について教えてください。

信用金庫という組織は、誰のためにあるかといえば、地域のためにある組織です。

では、その地域の現状はどうか。七尾市でアンケート調査を実施したところ、親が自分の子どもに対して「七尾には帰ってこなくていいから」と言っていて、七尾市外に送り出しているという声がありました。このような、地域に対する後ろ向きな現状では、地域課題を洗い出し、そこから必要な取組を考えていくというアプローチは難しいかもなと思いました。

そこで、第一に自分たちがやりたいと思う未来に対して、ワクワクをベースとした前向きな意識の醸成に取り組みました。

まず2040年の七尾市をイメージし、

その中でそれぞれが何をしたいかアクションプランを考える「未来ビジョン構想の集い」を開催しました。そこで生まれたアクションプランを基に、地域ビジョンをいくつか考え、市民が地域ビジョンを選ぶ総選挙「七尾市民一斉総選挙」を実施。結果、地域ビジョンが「里山里海未来都市 七尾」に決まりました。

それらの取組が評価され、内閣府の「第2回地方創生SDGs金融表彰」や「SDGs未来都市」に選んでいただきました。

——それらの取組の中で、入口さんが担っていた役割を教えてください。

あらゆる市民の方々とともに、持続可能な地域の未来ビジョンを創っていく過程で、「事務局の事務局」ともいえる立場を担っていました。具体的には、たくさんの人と会い、お話を聞き、その内容を会議やイベントにつなげていくことです。

くことです。

市民の方々がワクワクしながら参加できる企画を、いかに考えられるかが勝負どころでした。それは簡単なことではなく、悩み戸惑い、時に孤独を感じることもありました。

困ったときには、

地域の人に助けてもらえばいい、という考えをもてるようになったのは、この役割を担ったからなのかもしれません。——今後の取組の展望について教えてください。

七尾市の持続可能性を高めるために、SDGsのコンソーシアムである「ななおSDGsスイッチ」を立ち上げ、環境・社会・経済の三側面を統合した、創業支援から伴走支援までを行うプロジェクトを進めてきました。いかに多くの方々が、ここに参画していただけるかが、ポイントだと考えています。

これまで、七尾市をSDGs未来都市にすることを一つのゴールとして目指してきました。努力が実り、SDGs未来都市になった今、一度立ち止まり、次のゴールを考え直す必要もあるかもしれません。これまでと違うのは、私たちの周囲に前向きな市民の方々の姿があることです。

地域内の前向きな気持ちをベースに、この先の取組を編み直していけたらと思います。

[聞き手：つな環編集部]

入口 翔 (いりくち しょう)

石川県金沢市出身。
大学を卒業後、のと共栄信用金庫に入庫。
2014年より経済産業省へ転籍出向。
2018年のと共栄信用金庫に復職し、七尾市に1ター。
七尾商工会議所と七尾青年会議所の役職を兼任し、地方創生、SDGsプロジェクトに貢献。
現在は、庫員の傍ら大学院で地域創造学を専攻している。



まちづくりシミュレーションの様子